

甘藷の比較検証（長崎県）

【甘藷の比較検証】

撮影日：8月29日

試験区：大和培養液散布あり



対照区 大和培養液散布なし



- ・この農場では基腐病の発生は、一度も出ていません。
- ・7月26日 試験区に1000倍希釈で1回のみマルチの隙間から散布。

※栽培途中からの検証試験で、マルチを敷いているため、土壌への大和培養液直接散布はしていません。

試験区：大和培養液散布あり



葉の色が濃く、密集している。

対照区：大和培養液散布なし



葉の色が薄く、隙間がある。

～生産者様のコメント～

試験区の茎の成長が良い。
葉が多く、葉も大きくて濃い緑色。

生産者様は、僅か1カ月弱でマルチの上からでも差が出ている事に、大変驚いています。

10月13日(散布後約2ヵ月半)

散布日:7月26日



～現状比較(収穫は1ヵ月後)～

試験区の大和培養液Cをマルチの隙間から土壌散布(1回のみ)した葉は、濃い緑色で大きく、欠株なく葉もビッシリで、蔓も太い。

対照区(散布なし)は、所々に欠株があり、所々畝の土が見える。

また、1株抜いてみたら、大和培養液Cを土壌散布した方が、芋の数が多い。



収穫(11月頃)

収穫後の甘藷が、送られてきました。

甘藷の栽培が初めてで、同じ圃場内のため、厳密な収穫量の計測が出来なかったそうですが、感覚では、試験区の甘藷が1.2~1.3倍多かったそうです。

また、試験区の蔓と葉の成長がすごく、つる返しが大変だったとのことでした。